

2023年3月期決算概要



日進工具株式会社

2023年5月12日
(証券コード6157)

目次

1. 2023年3月期の業績

P. 3	・・・	決算の概要
P. 4	・・・	営業利益の減益要因
P. 5	・・・	損益計算書サマリー
P. 6	・・・	貸借対照表サマリー
P. 7	・・・	業績推移

2. 2024年3月期の業績予想

P. 14	・・・	業績予想
P. 15	・・・	設備投資と減価償却費のトレンド
P. 16	・・・	配当予想
P. 17	・・・	株主優待制度の一部変更について

参考資料

P. 19	・・・	日進工具の概要
P. 20	・・・	沿革・業績推移
P. 21	・・・	当社製品とその市場について
P. 30	・・・	コーポレートガバナンスの体制
P. 32	・・・	株式の状況
P. 33	・・・	主要データ推移・投資指標
P. 35	・・・	株価推移とバリュエーション
P. 36	・・・	IR情報サイト/ ニュースメール登録のご案内

2023年3月期の業績



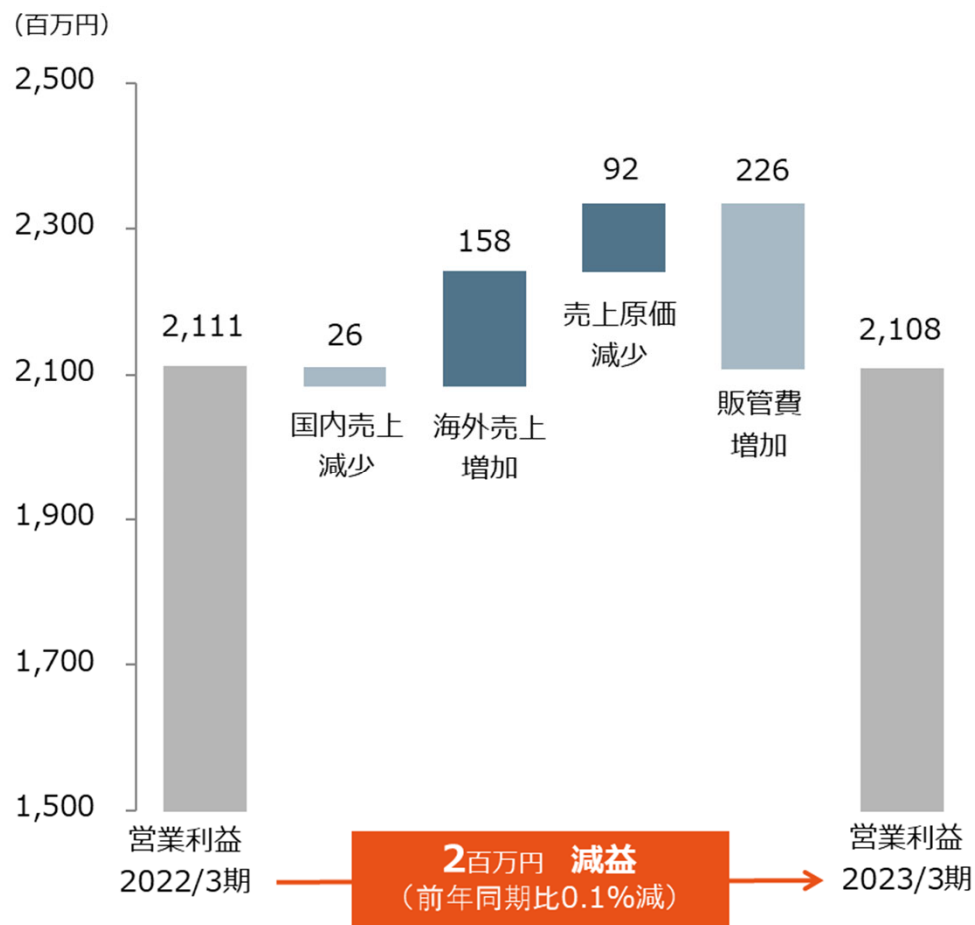
決算の概要

前期に比べ増収、若干減益
通期業績予想は達成

(単位：百万円)	通期予想	2023年3月期 通期実績	予想対比
売上高	9,370	9,656	286
前期比	-1.6%	+1.4%	+3.1%
営業利益	1,790	2,108	318
前期比	-15.2%	-0.1%	+17.8%
経常利益	1,790	2,131	341
前期比	-17.0%	-1.2%	+19.1%
当期純利益	1,210	1,475	265
前期比	-20.5%	-3.1%	+21.9%

- 自動車関連は半導体や部品の不足により減産が続き低調に推移。一方、半導体や電子部品・デバイス関連はスマートフォン・PC等需要の一巡が見られたものの、概ね堅調に推移した。
- 物価上昇等によりコストは増加したが、継続して取り組んでいる原価低減の奏功や、11月受注分から開始した値上げの影響から、通期業績予想に対して売上、利益とも超過達成となった。
- 連結売上高は9,656百万円と前期比1.4%の増加。
- 連結営業利益は2,108百万円と同0.1%減少。連結経常利益は2,131百万円と同1.2%減少。
- 売上高営業利益率は21.8%、売上高経常利益率は22.1%となった。

営業利益の減益要因



- 売上高は国内が前期比26百万円、0.4%の減少、海外が同158百万円、5.4%の増加となり、売上高全体では同131百万円、1.4%増加した。
- 売上原価は同92百万円、2.0%の減少となり、売上総利益率は53.0%となった。一部のコスト増加はあったものの、原価低減が奏功した。
- 販管費は、積極的な営業活動により販売費である展示会費や広告宣伝費等が増加した。人件費を除く販管費は同13.7%の増加、全体では同226百万円、8.2%の増加となった。
- これらの結果、営業利益は同2百万円、0.1%減少の2,108百万円、売上高営業利益率は21.8%と前期の水準を0.4ポイント下回った。

損益計算書サマリー

(単位：百万円)	2022年3月期	2023年3月期	前期比
売上高	9,524	9,656	+1.4%
売上総利益	4,891	5,115	+4.6%
対売上高比率	51.4%	53.0%	
販管費	2,780	3,007	+8.2%
対売上高比率	29.2%	31.1%	
営業利益	2,111	2,108	-0.1%
対売上高比率	22.2%	21.8%	
経常利益	2,156	2,131	-1.2%
対売上高比率	22.6%	22.1%	
当期純利益	1,522	1,475	-3.1%
対売上高比率	16.0%	15.3%	
設備投資額	659	686	+4.1%
減価償却費	692	669	-3.2%
従業員数	348人	352人	+1.1%

- 11月受注分より実施した一部製品値上げ前の駆け込み需要の反動により、1-3月はやや低調に推移したものの、値上げによる嵩上げ効果もあり、売上高は9,656百万円と前期比1.4%の増加。
- 売上総利益は5,115百万円と同4.6%増加。改善活動による原価低減の奏功等から、売上原価は同2.0%減少しており、売上総利益率は53.0%と同1.6ポイント上昇。
- 販管費は展示会費等の営業活動費用の増加に伴い、全体で同8.2%増加。売上高販管費比率は31.1%と同1.9ポイント上昇。
- これらにより、営業利益は同0.1%減の2,108百万円、売上高営業利益率は21.8%と、同0.4ポイント低下。
- 設備投資額は、設備計画のずれ込みもあり期初予想の水準にはならず同4.1%増の686百万円となった。減価償却費は同3.2%の減少となった。

貸借対照表サマリー

(単位：百万円)	2022年 3月期末	構成比	2023年 3月期末	構成比	前期末比
(資産の部)					
I 流動資産	11,807	66.1%	12,298	65.2%	+4.2%
現金及び預金	8,543	47.8%	8,497	45.1%	-0.5%
受取手形及び売掛金	1,322	7.4%	1,355	7.2%	+2.5%
棚卸資産	1,840	10.3%	2,320	12.3%	+26.0%
II 固定資産	6,066	33.9%	6,559	34.8%	+8.1%
有形固定資産	5,435	30.4%	5,412	28.7%	-0.4%
無形固定資産	32	0.2%	28	0.2%	-13.1%
投資その他の資産	598	3.4%	1,118	5.9%	+86.8%
資産合計	17,874	100.0%	18,857	100.0%	+5.5%
(負債の部)					
I 流動負債	1,483	8.3%	1,432	7.6%	-3.5%
買掛金	249	1.4%	303	1.6%	+21.9%
II 固定負債	224	1.3%	224	1.2%	-
負債合計	1,708	9.6%	1,657	8.8%	-3.0%
(純資産の部)					
自己資本合計	15,950	89.2%	16,984	90.1%	+6.5%
純資産合計	16,165	90.4%	17,200	91.2%	+6.4%
負債・純資産合計	17,874	100.0%	18,857	100.0%	+5.5%

流動資産

製品や原材料といった棚卸資産が増加したこと等から前期末比4.2%増加。

固定資産

保険新規契約による保険積立金の増加等により投資その他の資産が同86.8%増加。固定資産全体では同8.1%増加。

負債

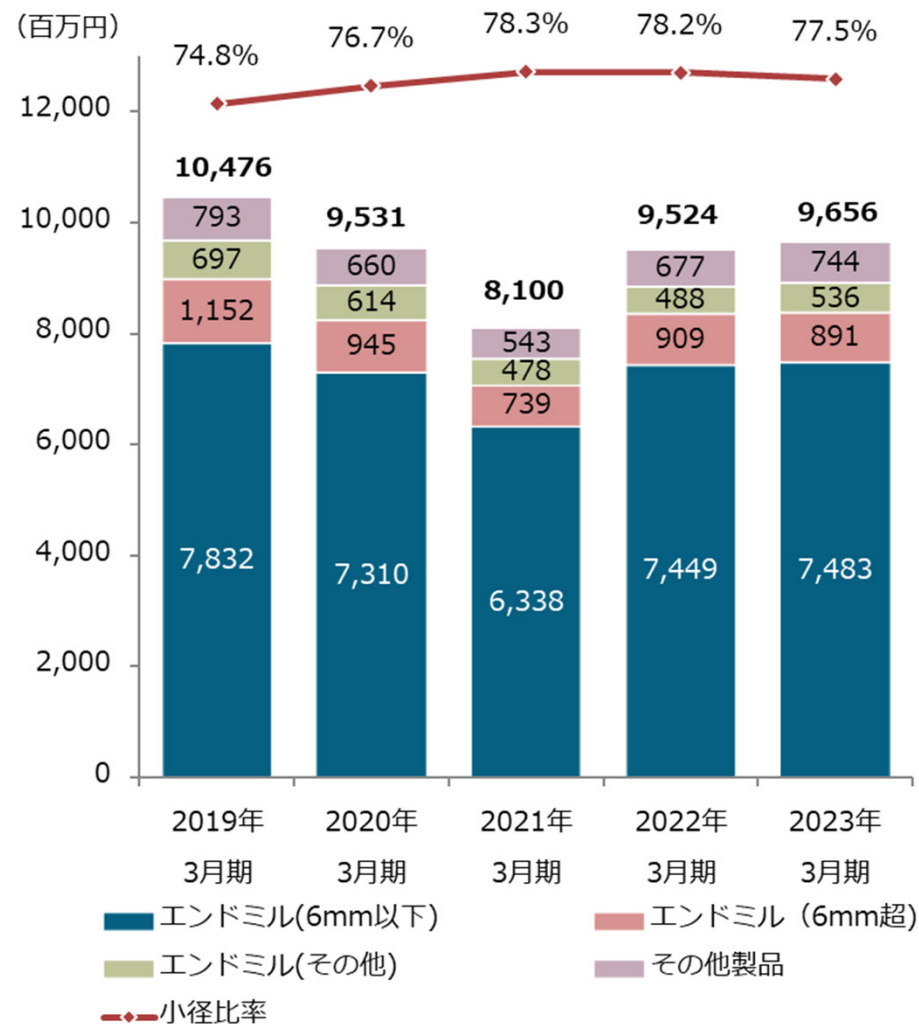
未払法人税等や未払消費税の減少等により同3.0%の減少。

純資産

利益剰余金の増加等から、同6.4%増加。自己資本比率は90.1%と同0.9ポイント上昇。

業績推移（売上高の推移①） 製品別

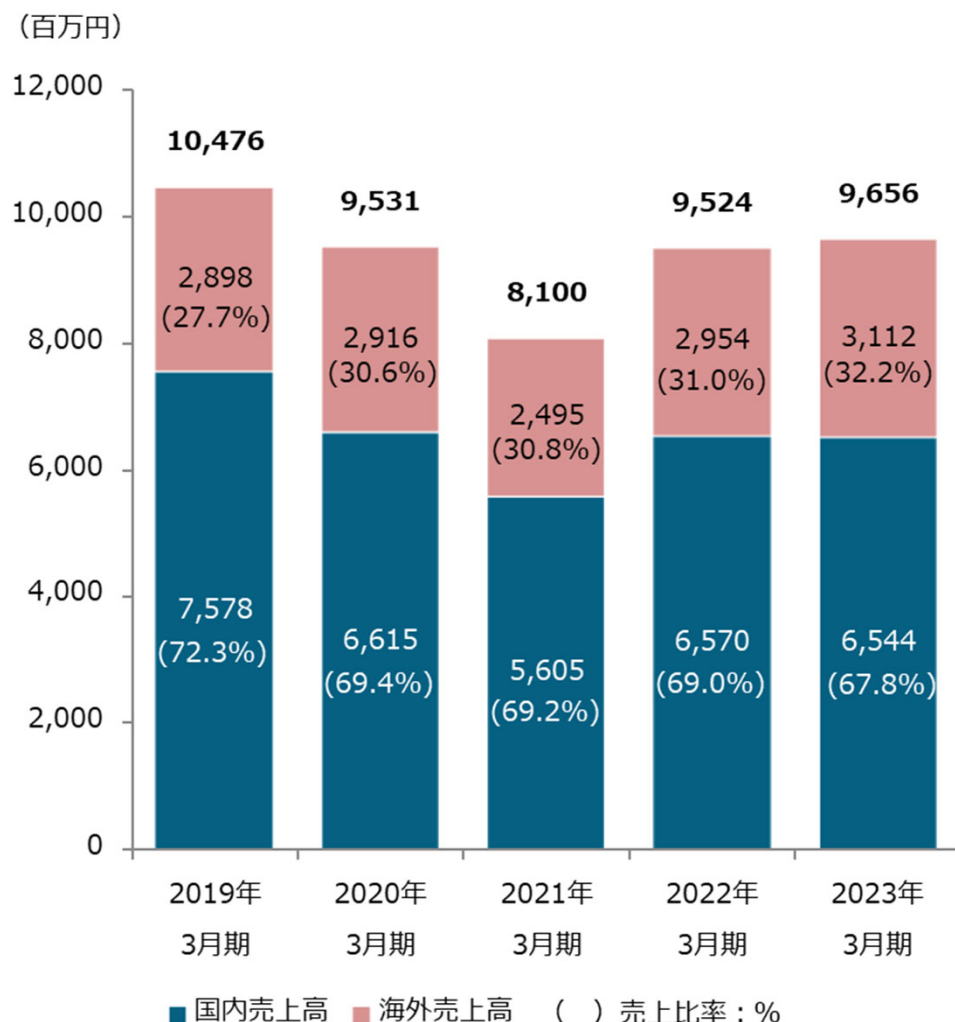
製品別売上高と小径比率の推移



- 自動車関連は、半導体や部品の供給不足の影響により生産台数が伸び悩み、低調に推移した。一方、半導体や電子部品・デバイス関連は、活況となっていたスマートフォンやPC等の需要減退に伴い、後半にかけて落ち着いた動きとなったものの、概ね堅調に推移した。
- 11月受注分からの一部製品の値上げ前に駆け込み需要が発生した。その反動もあり1-3月はやや低調であったが、通期の売上高は前期比1.4%増の9,656百万円となった。
- 主力のエンドミル（6mm以下）は前期比0.5%の増加、刃径の大きいエンドミル（6mm超）は同2.0%の減少、ユーザーの独自仕様となる特殊品を中心としたエンドミル（その他）は同9.8%の増加となった。また工具ケース等のその他も同10.0%の増加。小径比率は同0.7ポイント低下し77.5%。

業績推移（売上高の推移②） 国内・海外

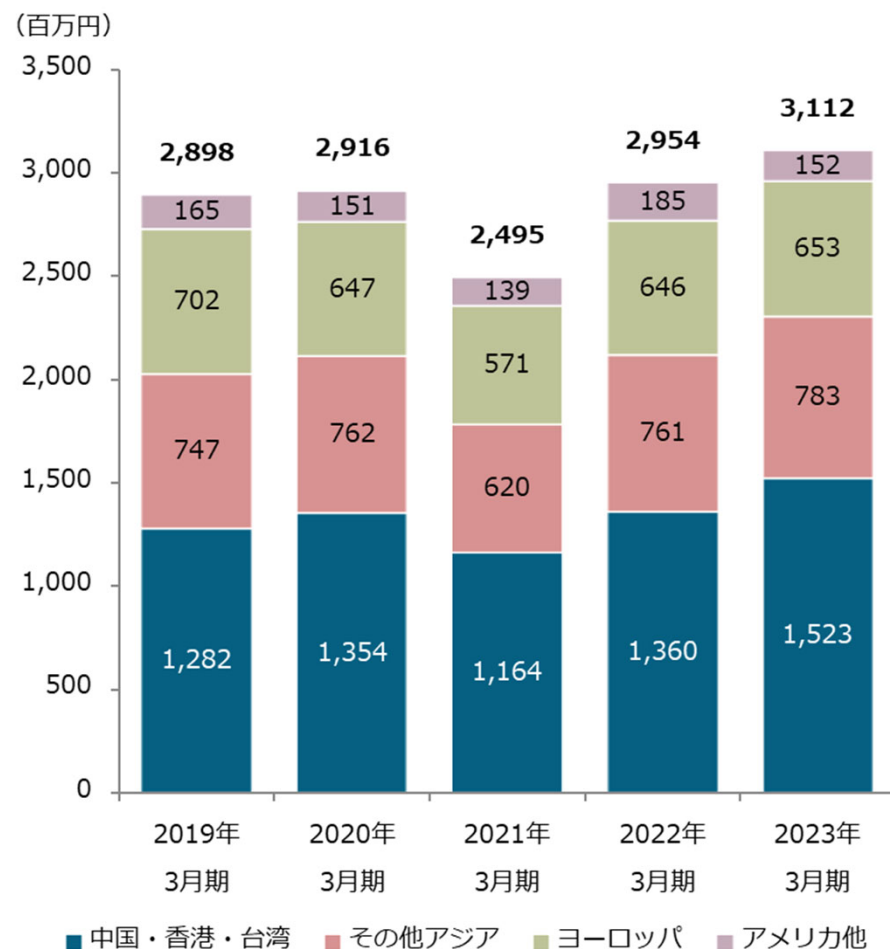
国内・海外売上高の推移



- 国内売上高は前期比26百万円、0.4%減少し6,544百万円。前期と同等の水準となった。
- 海外売上高は同158百万円、5.4%増加し、3,112百万円と過去最高を更新した。大きな割合を占める中華圏において、4-6月は中国でのロックダウン対策、7-9月は値上げ前の駆け込み等、需要を先取りした在庫確保の動きがあり概ね好調に推移した。
- 海外売上高比率は前期比1.2ポイント上昇し32.2%。10年前は20%弱であったが、日進工具香港設立後、2014年3月期から每期比率が上昇。2020年3月期以降は30%を超える水準となっている。

業績推移（売上高の推移③） 海外地域別

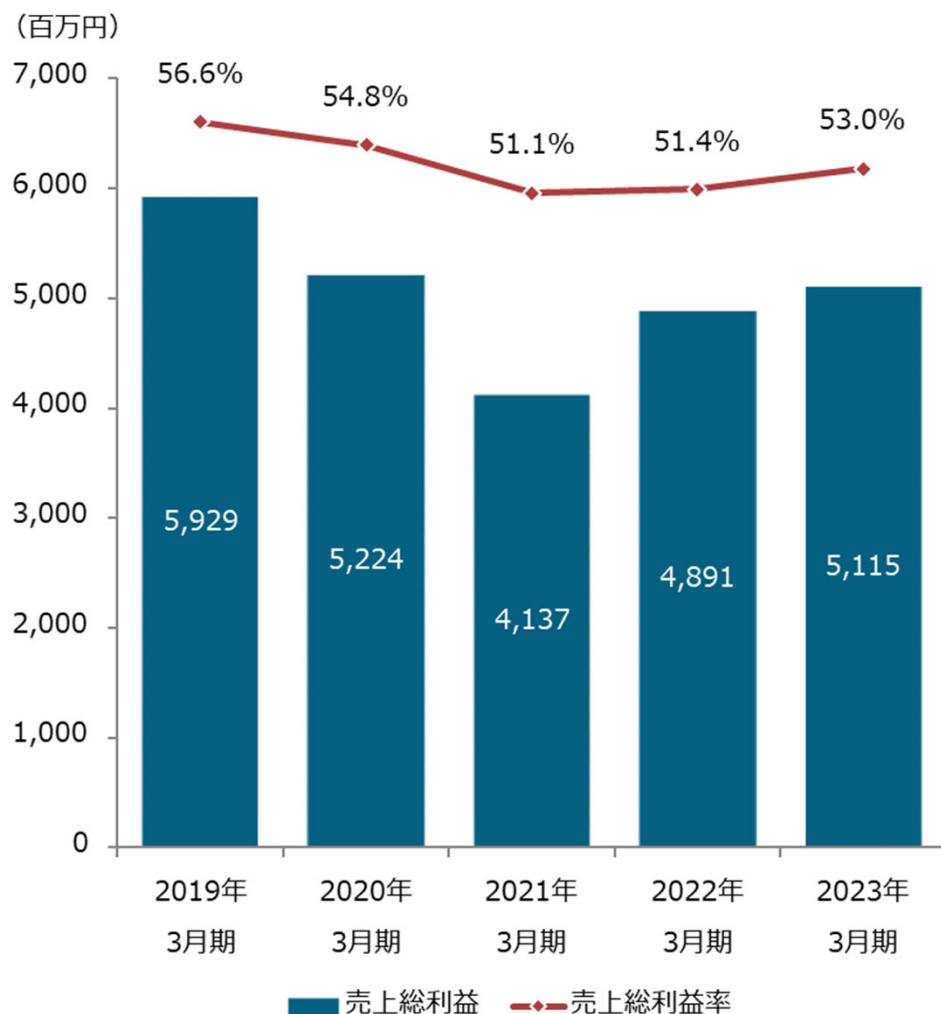
海外地域別売上高の推移



- 中国・香港・台湾は前期比12.0%増加の1,523百万円。日進工具香港の連結に絡み、中国向けの数字は2022年1月から12月分。ロックダウン対策による在庫確保の動きや値上げ前の駆け込み需要があったことにより、過去最高の売上となった。
- その他アジアは同2.8%増加の783百万円。部品不足等の解消により自動車関連で生産が増加しているが、地域によりばらつきがみられる。
- ヨーロッパは同1.1%増加の653百万円。ウクライナ情勢により燃料価格が高止まりする中、自動車業界は一部で回復が見られたが、全体的には低調となった。
- アメリカ他は同17.8%減少の152百万円。前期は医療関係を中心に受注の増加があったが、当期はインフレやコスト削減からユーザーの動きが鈍化。今後、新規設立した米国子会社を中心に販売の拡大を狙う。

業績推移（売上総利益の推移）

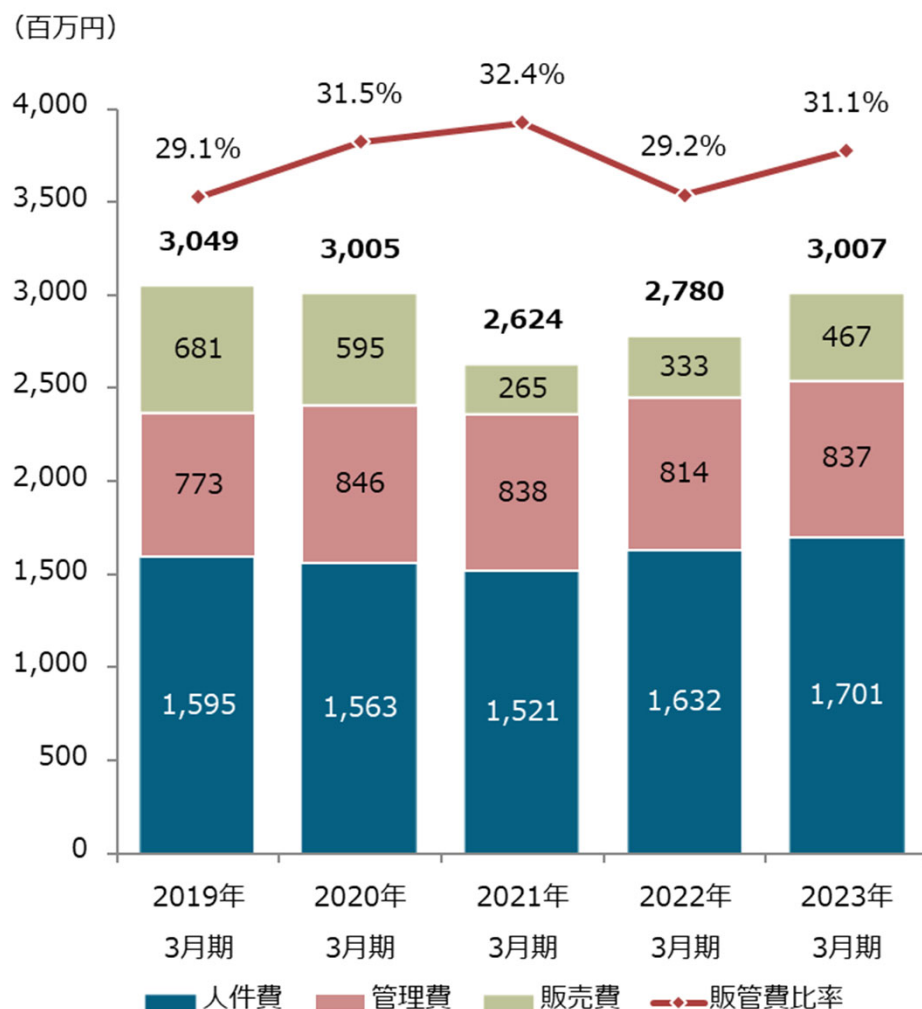
売上総利益と売上総利益率の推移



- 需要に応じた生産計画と内製化推進により、原材料費は前期比微減、外注加工費は同8.8%減少した。一方、労務費は同7.8%増加した。製造電力費が前期より3割強増加したが、継続して行っている製造現場での原価低減の取り組みが奏功し、製造経費は同1.4%の増加に止まった。
- 在庫拡充により製品在庫が同16.1%増加したこともあり、売上原価は4,540百万円と、同2.0%減少した。
- 売上総利益は同4.6%増加の5,115百万円、売上総利益率は53.0%と同1.6ポイント上昇した。

業績推移（販管費の推移）

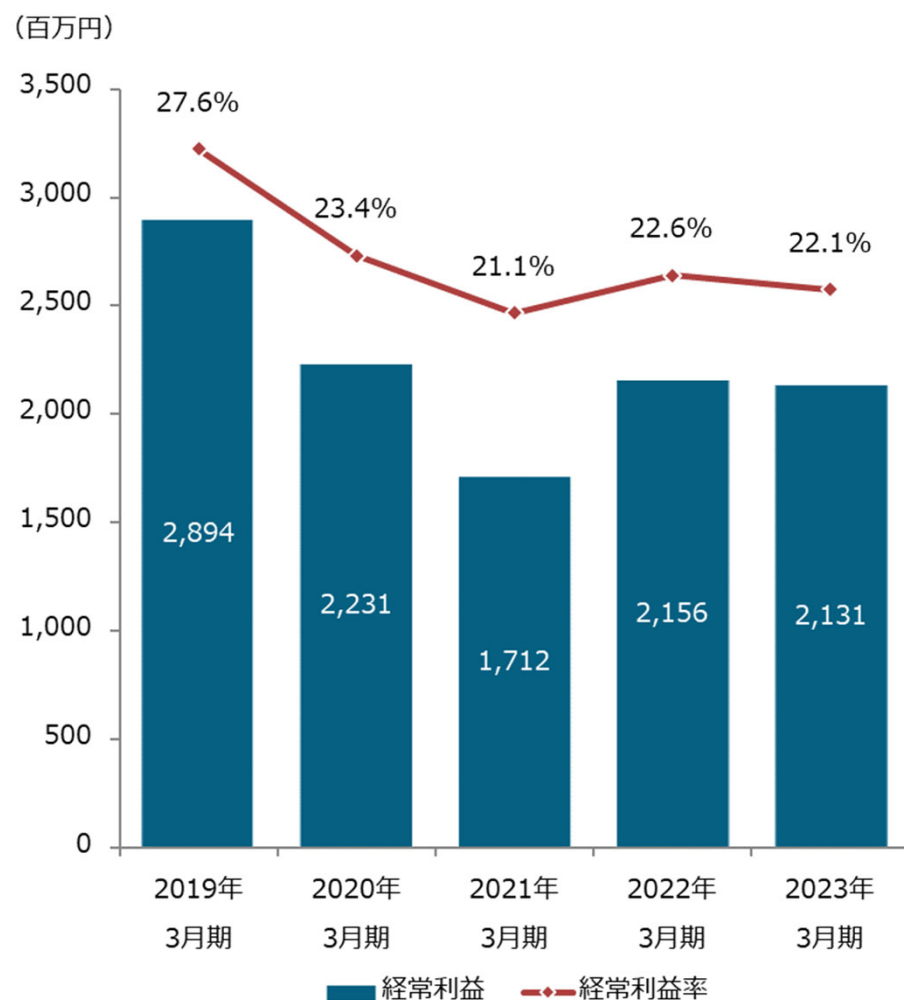
販管費と販管費比率の推移



- 販売費は、国内でのJIMTOFやインターモールド、アメリカでのIMTSなど大規模展示会への出展による展示会費の増加に加え、カタログやパンフレット制作により広告宣伝費も増加した。また、営業活動の再開に伴い出張旅費も増加したことから、前期比40.4%増加の467百万円となった。
- 人件費は、従業員給与や賞与引当金の増加等から同4.2%増加の1,701百万円。
- 販管費全体では同8.2%増加の3,007百万円となり、売上高販管費比率は31.1%と同1.9ポイント上昇した。

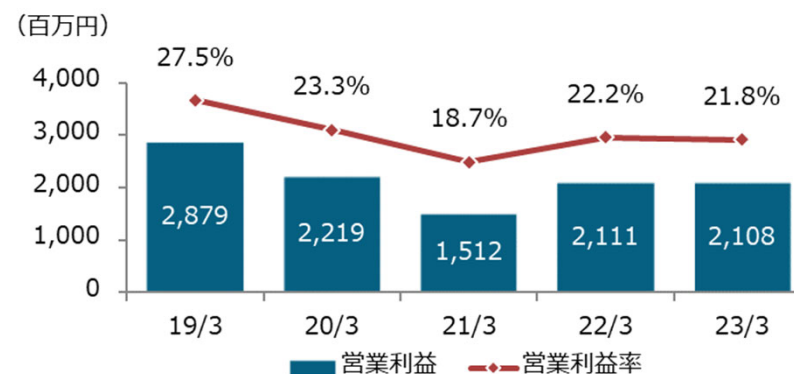
業績推移（経常利益の推移）

経常利益と売上高経常利益率の推移



- 売上総利益は増加したものの販管費の増加に伴い、営業利益は2,108百万円、前期比0.1%減少。売上高営業利益率は21.8%と同0.4ポイント低下。
- 営業外損益では作業くず売却益等により営業外収益が58百万円、為替差損等により営業外費用が35百万円発生したことにより、経常利益は2,131百万円と同1.2%減少。
- 売上高経常利益率は22.1%と同0.5ポイント低下。

(参考) 営業利益と売上高営業利益率の推移



2024年3月期の業績予想



業績予想

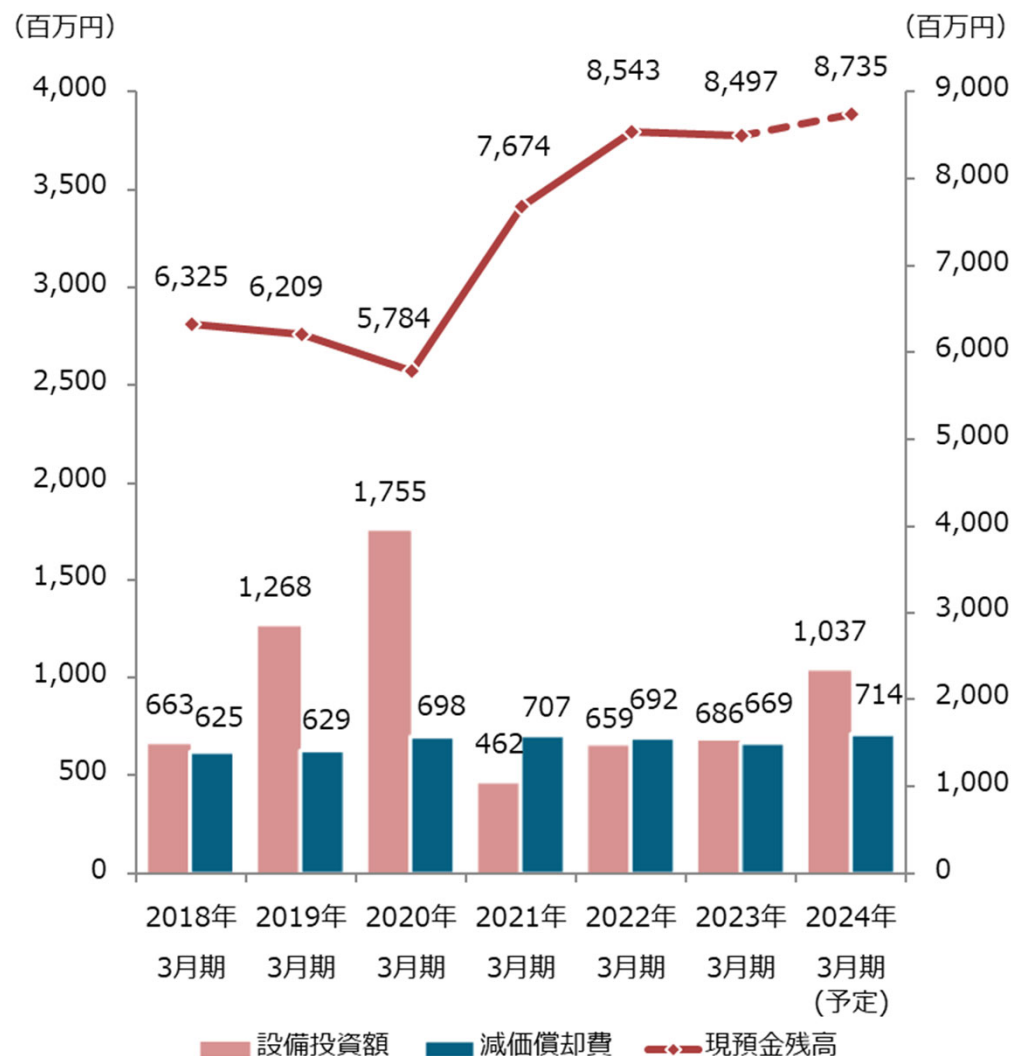
(単位：百万円)	2023年3月期 通期実績	2024年3月期 通期予想	前期比 増減率
売上高	9,656	9,870	+2.2%
営業利益	2,108	1,820	-13.7%
経常利益	2,131	1,830	-14.2%
当期純利益	1,475	1,220	-17.3%

設備投資額	686	1,037	+51.1%
減価償却費	669	714	+6.6%
EPS (円)	59.16	48.88	-17.4%
1株当たり配当金 (円)	22.50	25.00	+11.1%

- 自動車関連は部品不足の解消等から生産台数が徐々に回復する見込み。半導体・電子部品関連は一部需要の減退は懸念されるものの、DXの拡大により通信や処理の高度化が進むと見込まれ、幅広い分野で一定の需要はあると予想される。
- 経済活動の正常化に合わせた積極的な営業活動や新製品の発売等から、売上は若干増加見込み。なお、資材等の価格や電力費の継続的な上昇は避けられず、賃金上昇も見込まれることから、コスト増加を折り込んでいます。
- 売上高は前期比2.2%増の9,870百万円、営業利益は同13.7%減の1,820百万円、経常利益は同14.2%減の1,830百万円を予想。
- 設備投資は、継続的な生産設備の増強等を実施予定。前期からの設備計画のずれ込みもあり前期比51.1%増の見込み。
- 1株当たり配当金は、中間配当金を12.5円に引き上げ、期末配当金12.5円を含めて年間では25円を予定。

設備投資と減価償却費のトレンド

設備投資、減価償却費及び現預金残高の推移



設備投資増減要因

2020年3月期

新開発センターの竣工や開発関連設備の導入、子会社工場の新棟建設及び継続的な生産設備の更新等により増加。

2021年3月期

稼働率の低下もあり、一部設備の導入を次期に繰越したことから当初計画に比べ減少。

2022年3月期

稼働率の回復に伴い、継続的な生産設備の導入等、例年並みの水準。

2023年3月期

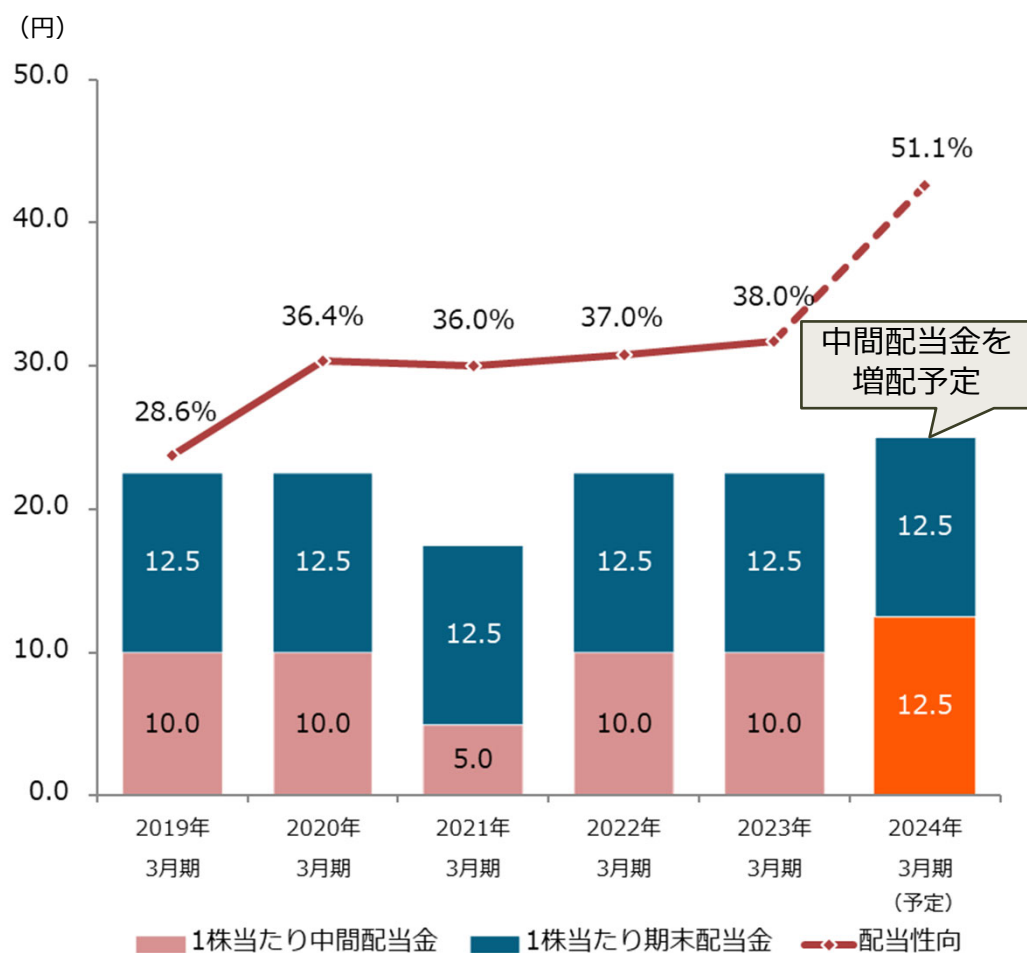
主に生産設備の増強等を実施。設備導入が一部次期にずれ込み、期初計画より減少。

2024年3月期計画

継続的な生産設備の拡充を予定。前期予定していた設備導入計画を一部含む。

配当予想（株主還元について）

1株当たり配当金と配当性向の推移



安定性・継続性に配慮しつつ

業績動向や配当性向等を総合的に勘案

- 2023年3月期の1株当たり年間配当金は22.5円を予定。

中間配当金10円、期末配当金12.5円
業績に対する配当性向は38.0%

- 2024年3月期の1株当たり年間配当金は、基本方針に沿いつつ資本効率を意識し、業績見込みに鑑み、25.0円と増配を予定。

中間配当金12.5円、期末配当金12.5円
業績予想に対する配当性向は51.1%

株主優待制度の一部変更について

利益還元の公平性、株主配当とのバランスの観点から、増配予定にあわせて株主優待制度を一部変更させていただくこととしました

現行の株主優待制度

保有年数	保有株式数	内容
3年未満	100株以上	オリジナルクオカード 1,000円分
3年以上	100株以上	オリジナルクオカード 2,000円分



変更後の株主優待制度（2024年3月末日から）

保有年数	保有株式数	内容
3年未満	廃止	廃止
3年以上（※）	100株以上	オリジナルクオカード 2,000円分

※保有年数3年以上とは、株主名簿基準日（3月31日及び9月30日）の株主名簿に7回以上連続して、**同一株主番号で100株以上の保有記録**が記載または記録されること

參考資料



日進工具の概要 (2023年3月31日現在)

商号	日進工具株式会社 (NS TOOL CO.,LTD.)
創業	1954年(昭和29年)12月
本社	東京都品川区大井1-28-1 住友不動産大井町駅前ビル6F
資本金	4億5,533万円
代表者	代表取締役社長 後藤 弘治
従業員数	単体:223名、連結:352名
事業内容	超硬エンドミル(切削工具)の製造・販売

当社製品（超硬エンドミル）について

エンドミルとは、外周部と底部に切れ刃を設け、工作機械（マシニングセンタ）に取付け回転させることにより、金属等の加工を行う切削工具の一種。

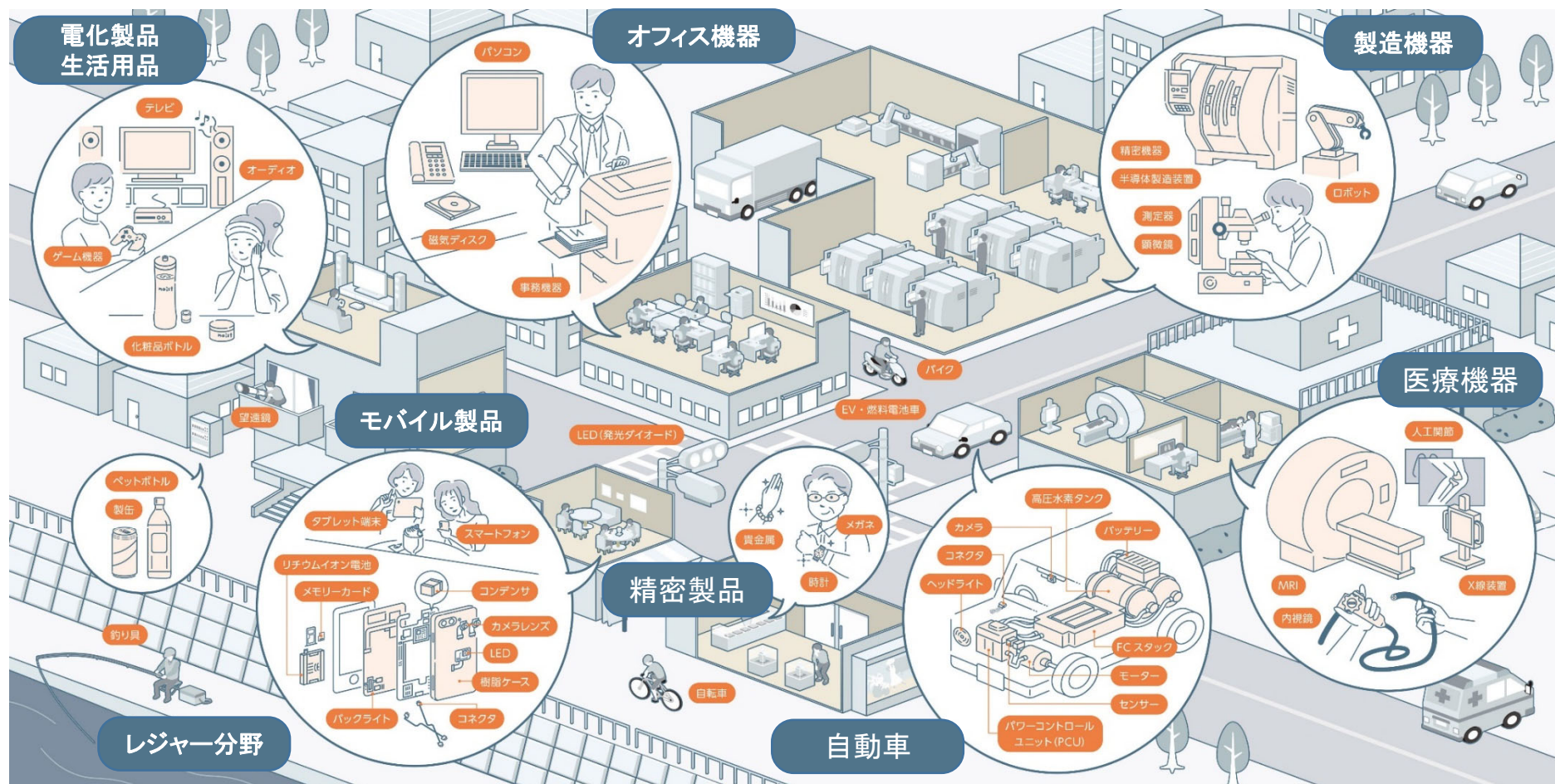
従来はハイス（高速度工具鋼）製が主体であった。

ハイスより硬い超硬合金（炭化タングステンとコバルトの焼結体）を使ったものが超硬エンドミル。

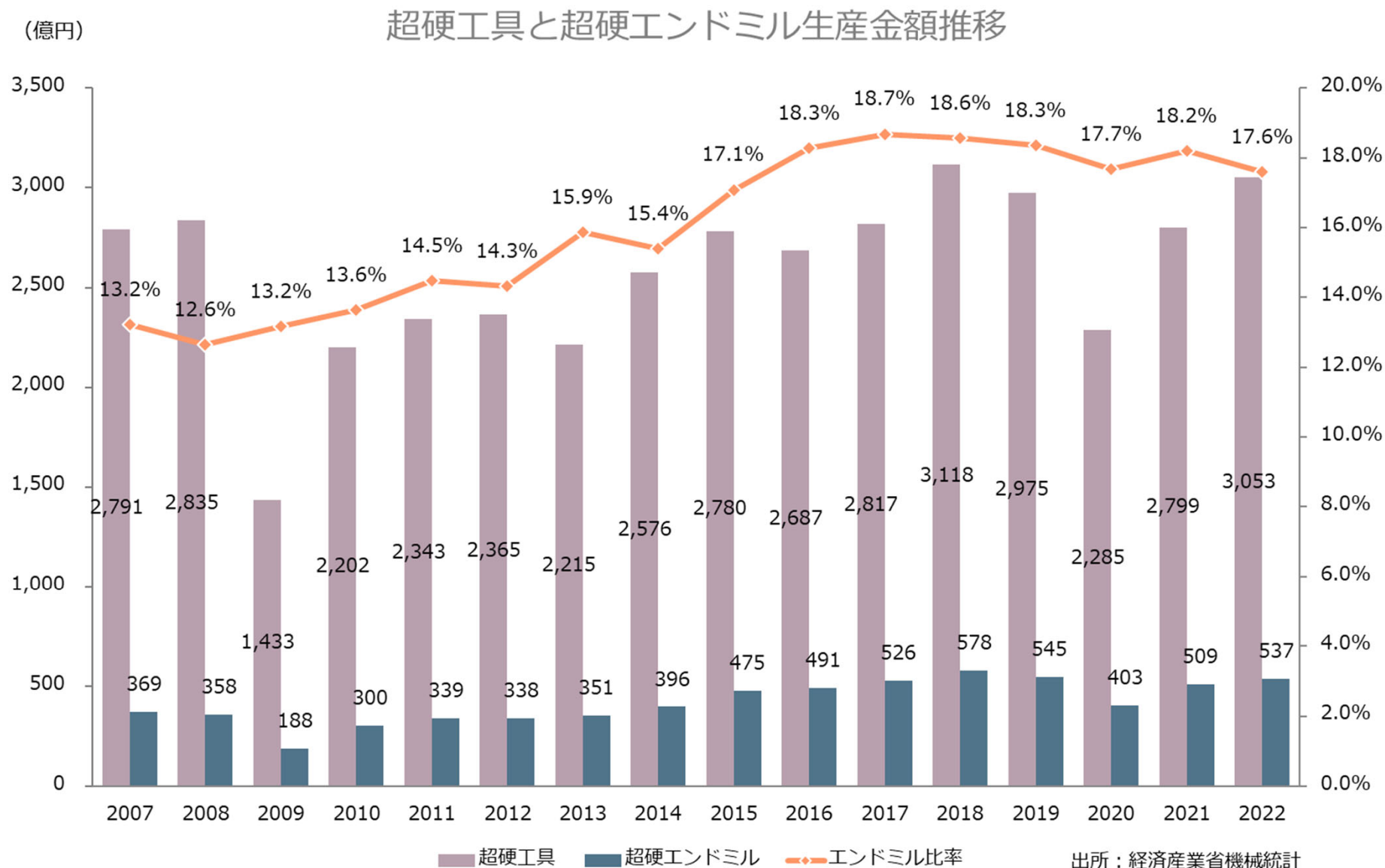


超硬エンドミルの用途

超硬エンドミルは、金型や金属部品等の切削加工に用いられる。
 当社では、刃先の直径が6mm以下となる小径エンドミルに特化しており、
 主に高い精度が要求される精密金型や微細部品等の加工に使用されている。



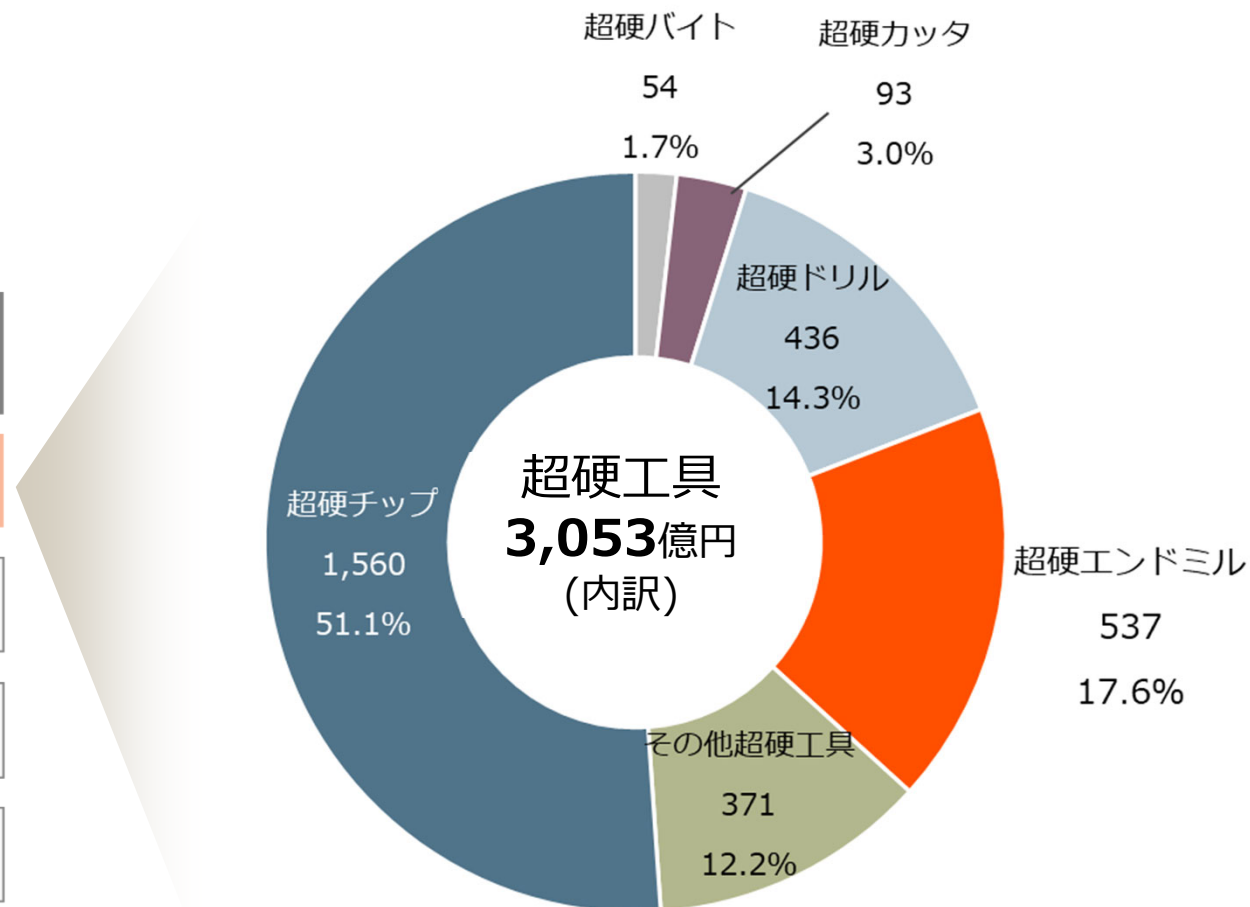
超硬工具と超硬エンドミル市場推移 (暦年)



超硬エンドミル市場の概況

機械工具生産金額 (2022年)	
総額	4,824億円
超硬工具	3,053億円(63.3%)
C(W)BN工具	287億円(6.0%)
ダイヤモンド工具	657億円(13.6%)
特殊鋼切削工具	825億円(17.1%)

出所：経済産業省機械統計



今後の超硬小径エンドミル市場

超硬小径エンドミル[※]の市場規模は、家電のデジタル化や携帯電話の登場により急拡大し、スマートフォンの普及、自動車の運転支援機能の高度化等からさらに広がりを見せた。現在はデジタルトランスフォーメーション（DX）が急速に進展しており、5G対応やAI、IoTの導入により、様々な製品に小型精密部品の採用が増えるとみられる。また、自動車産業においては自動化、HV/EV/FCV化が進んでおり、精密・微細加工は今後も増えていくと期待され、それらの生産に欠かせない超硬小径エンドミルは需要拡大が予想される。

※ 当社では「小径＝刃径6 mm以下」と定義している

超硬小径エンドミルの市場規模（当社推計）



日進工具 3つの強み



01 生産力

高品質製品を安定的に供給

自社開発機による自動化の推進
他社が追随できない生産性を誇る

高付加価値に特化



03 販売力

小径エンドミルではトップクラスのシェア

精密・微細加工を主とした加工技術提案
海外でも認知度がアップ



Micro thread cutting tool

02 開発力

超 モノづくり部品大賞等を受賞

高付加価値・次世代製品への取り組み
カギは製品の高精度化と長寿命化

財務体質

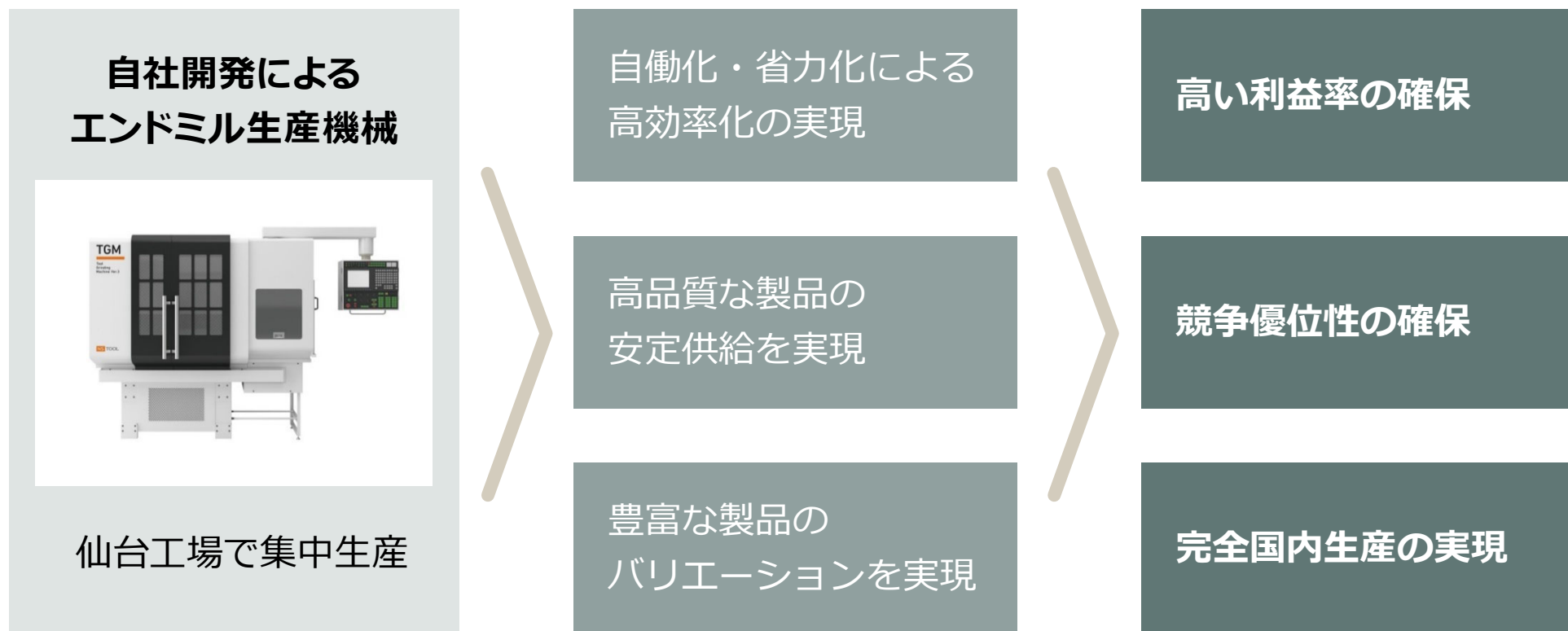
強固な財務基盤と高い収益力

有利子負債 ゼロ

経常利益率 22.1%

(2023/3期)

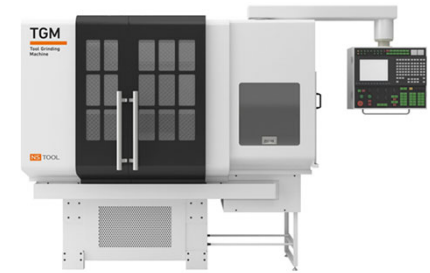
自社開発機による自動化（圧倒的な差別化）



Made in Japan の徹底

日進工具のサステナビリティ

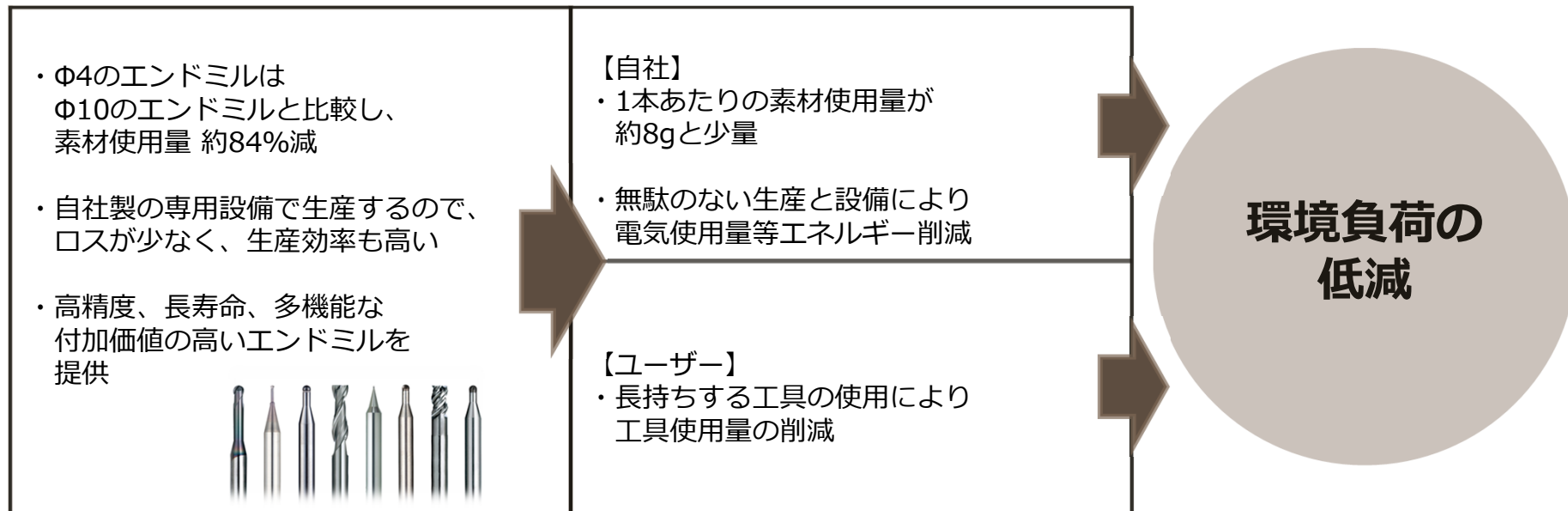
「人と地球にやさしい製品を、最小限の資源でつくり、環境負荷の低減に努めます。」



自社開発のエンドミル生産機械

小径工具に特化

省資源化

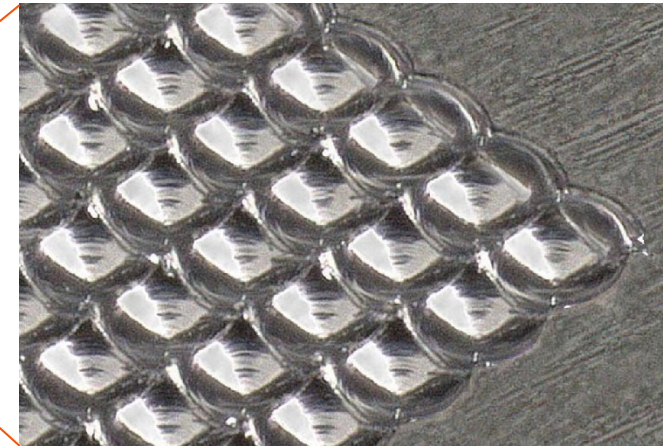
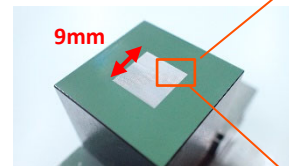
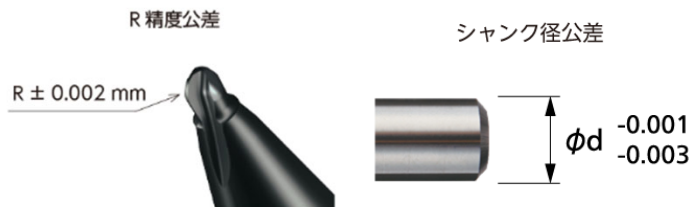


事業活動においては・・・

- ・ 最小限の資源を最大限有効活用することに努めます。
- ・ 使用済製品のリユースやリサイクル、リデュースの推進など、環境保全を重視した取り組みを実行して参ります。

新製品 CBNマイクロ2枚刃ボールエンドミルSMB200発売

2枚刃になったことで従来品より工具寿命が格段にUP
 当社の生産技術を活かし、R精度公差は $\pm 0.002\text{mm}$ 、
 シャンク径公差 $-0.001\text{mm} \sim -0.003\text{mm}$ の超高精度仕様を実現



9mm四方のワーク内に22,500個もの形状を加工
 1個目（最初）と22,500個目（最後）の形状精度の
 差は僅か0.001mm



4月開催の展示会（インターモールド）の
 ブース内でも積極的にPR

コーポレートガバナンスの体制 (2023年3月31日現在)

形態	監査等委員会設置会社
取締役の人数	9名
うち、監査等委員	5名
うち、社外取締役の人数	3名
社外取締役のうち独立役員	3名
任意の委員会	指名・報酬委員会 (社外取締役2名、社内取締役1名で構成)
取締役の任期	1年 (監査等委員は2年)
取締役へのインセンティブ付与	株式報酬制度・業績連動賞与 (監査等委員は除く)
執行役員制度	有 (現在4名)
会計監査人	監査法人A&Aパートナーズ

グループ会社（連結子会社）の概要 （2023年3月31日現在）

株式会社ジーテック

所在地

東京都品川区

事業内容

当社製品の販売



株式会社日進エンジニアリング

所在地

本社：宮城県黒川郡大和町
新潟工場：新潟県魚沼市

事業内容

コーティング加工、再研磨、
超硬エンドミルの受託加工（刃径6mm超の製品）



株式会社牧野工業

所在地

福島県白河市

事業内容

工具ケースを主力としたプラスチック成形品の製造・販売



NS TOOL HONG KONG LIMITED

（日進工具香港有限公司）

所在地

中華人民共和国香港特別行政区

事業内容

当社製品の販売（香港・中国）



NS TOOL USA, INC.

所在地

アメリカ合衆国ミシガン州
ロチェスターヒルズ

事業内容

当社製品の販売（米国）

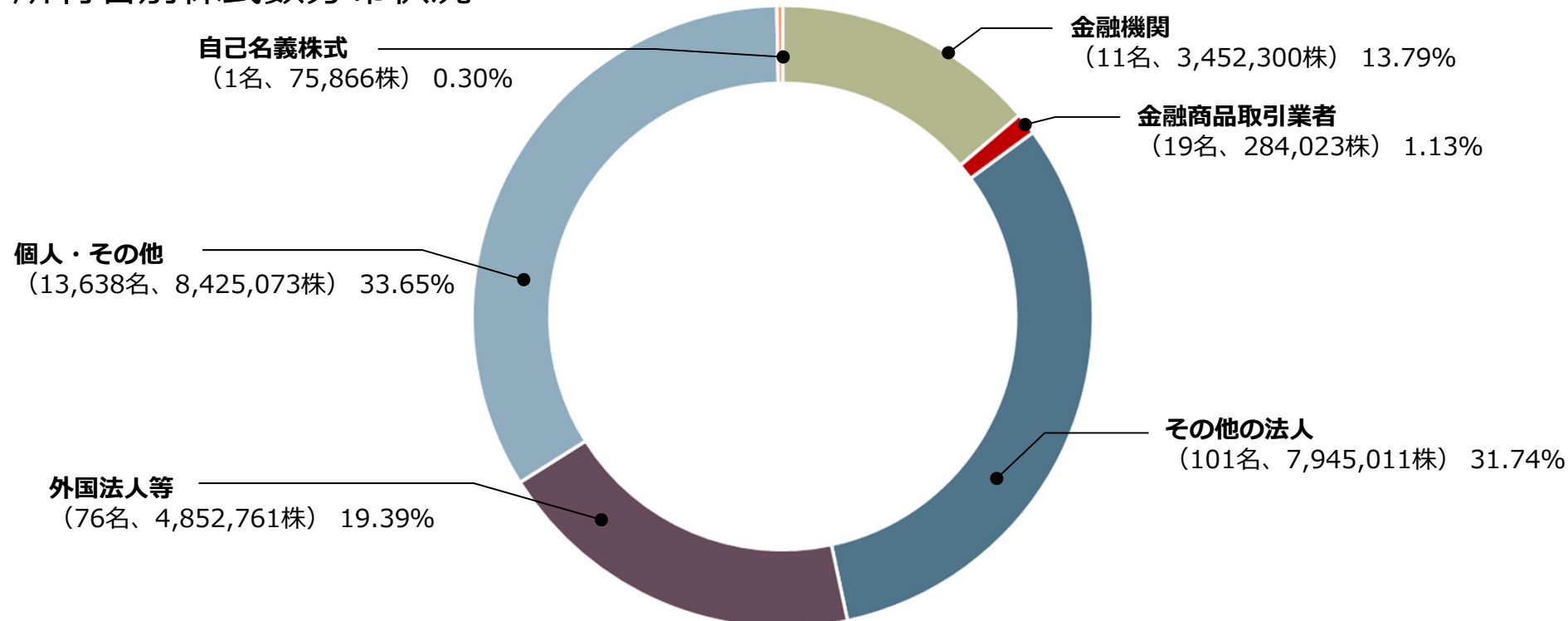


2022年8月より販売活動を開始

株式の状況 (2023年3月31日現在)

発行可能株式総数	38,400,000株
発行済株式総数	25,035,034株
株主数	13,846名

所有者別株式数分布状況

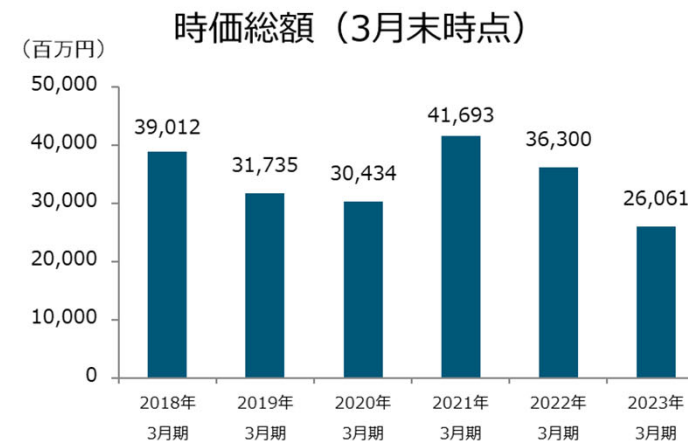
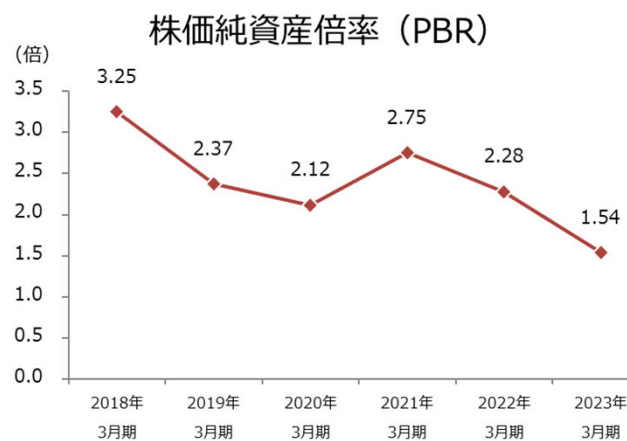
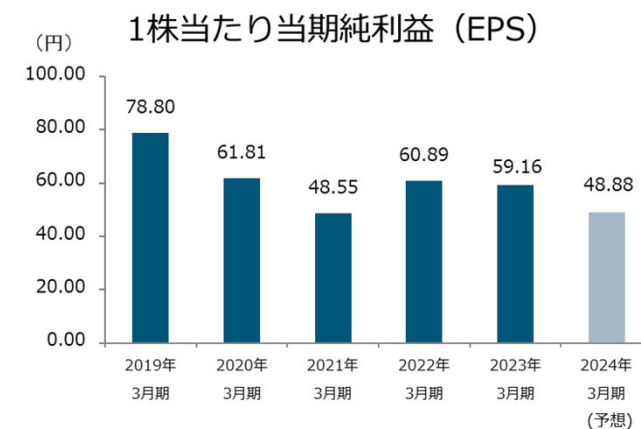
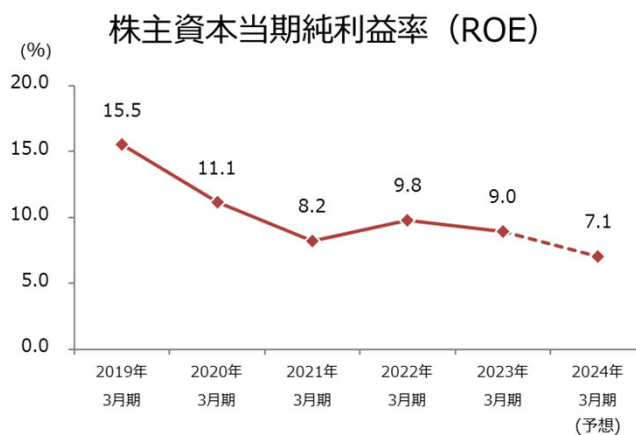
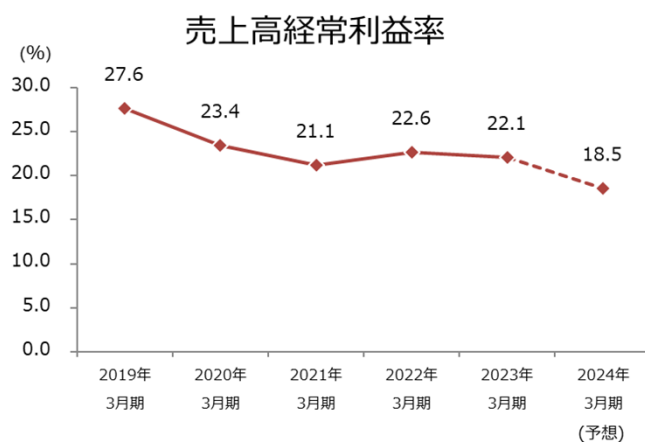


過去5年間の業績と主要データ推移

(単位：百万円)	2019年3月期 通期実績	2020年3月期 通期実績	2021年3月期 通期実績	2022年3月期 通期実績	2023年3月期 通期実績
売上高	10,476	9,531	8,100	9,524	9,656
営業利益	2,879	2,219	1,512	2,111	2,108
営業利益率	27.5%	23.3%	18.7%	22.2%	21.8%
経常利益	2,894	2,231	1,712	2,156	2,131
経常利益率	27.6%	23.4%	21.1%	22.6%	22.1%
当期純利益	1,970	1,545	1,214	1,522	1,475
当期純利益率	18.8%	16.2%	15.0%	16.0%	15.3%
有利子負債額	—	—	—	—	—
純資産額	13,461	14,498	15,326	16,165	17,200
総資産額	15,381	16,017	16,936	17,874	18,857
自己資本比率	87.1%	89.7%	89.4%	89.2%	90.1%
設備投資額	1,268	1,755	462	659	686
減価償却費	629	698	707	692	669
1株当たり配当金 (円)	22.50	22.50	17.50	22.50	22.50
従業員数 (人)	343	338	339	348	352

※2021年4月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

投資指標



※ 2021年4月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

株価推移とバリュエーション

週足ベース株価推移（2012年1月～2023年5月）



※ 2014年10月1日、2017年1月1日、2021年4月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

バリュエーション（2023年5月9日現在）

売買単位	100株
時価総額	291億円
ROE (23/3期実績)	9.0%

単元株価格	11万6,600円
PER (24/3期予想)	23.85倍
PBR (23/3期実績)	1.71倍

IR情報サイト／ニュースメール登録のご案内

The screenshot shows the NS TOOL IR information website. The main navigation menu includes: 製品情報, 事例・技術情報, 会社情報, 採用情報, and IR情報 (highlighted in orange). The page title is "IR情報" with the stock code "プライム市場 コード: 6157".

Callout lines point to the following features:

- IRトピックス**: Points to the "IRトピックス" section on the left.
- IRニュース**: Points to the "IRニュース" section on the left.
- IRトピックス**: Points to the "IRトピックス" section on the right.
- メニュー項目**: Points to the "IR情報" menu item on the right.
- IRニュース**: Points to the "IRニュース" menu item on the right.
- IRニュースメール登録**: Points to the "IRニュースメール登録" menu item on the right.

IRトピックス

最新のIR活動に関する話題を掲載しています。

メニュー項目

「+」をクリックいただくと各カテゴリーのメニューが表示されます。

現在閲覧中の項目はオレンジ色でハイライト表示となります。

IRニュース

有価証券報告書や決算短信など適時開示情報に関するニュースはこちらで確認いただけます。

URL <https://www.ns-tool.com/ir/>



当社の適時開示情報・IR情報をタイムリーに受け取ることができます。

当社に関する一層の理解を深めていただくためにも是非ご活用ください。

お問い合わせ

日進工具株式会社

取締役	経営企画室長兼管理部長	戸田	覚
管理部	経理課長	今関	弘毅
管理部	I R担当	松尾	友紀子

TEL : 03-6423-1135

FAX : 03-6423-1186

E-mail : ir@ns-tool.com

(注) 将来予想に関する記述については、目標や予測に基づいており、
確約や保証を与えるものではありません。
予想と異なることがある点を認識された上でご利用ください。